

林兼産業株式会社 2力年経営計画

2013年3月期～ 2014年3月期

2012年5月15日

経営理念

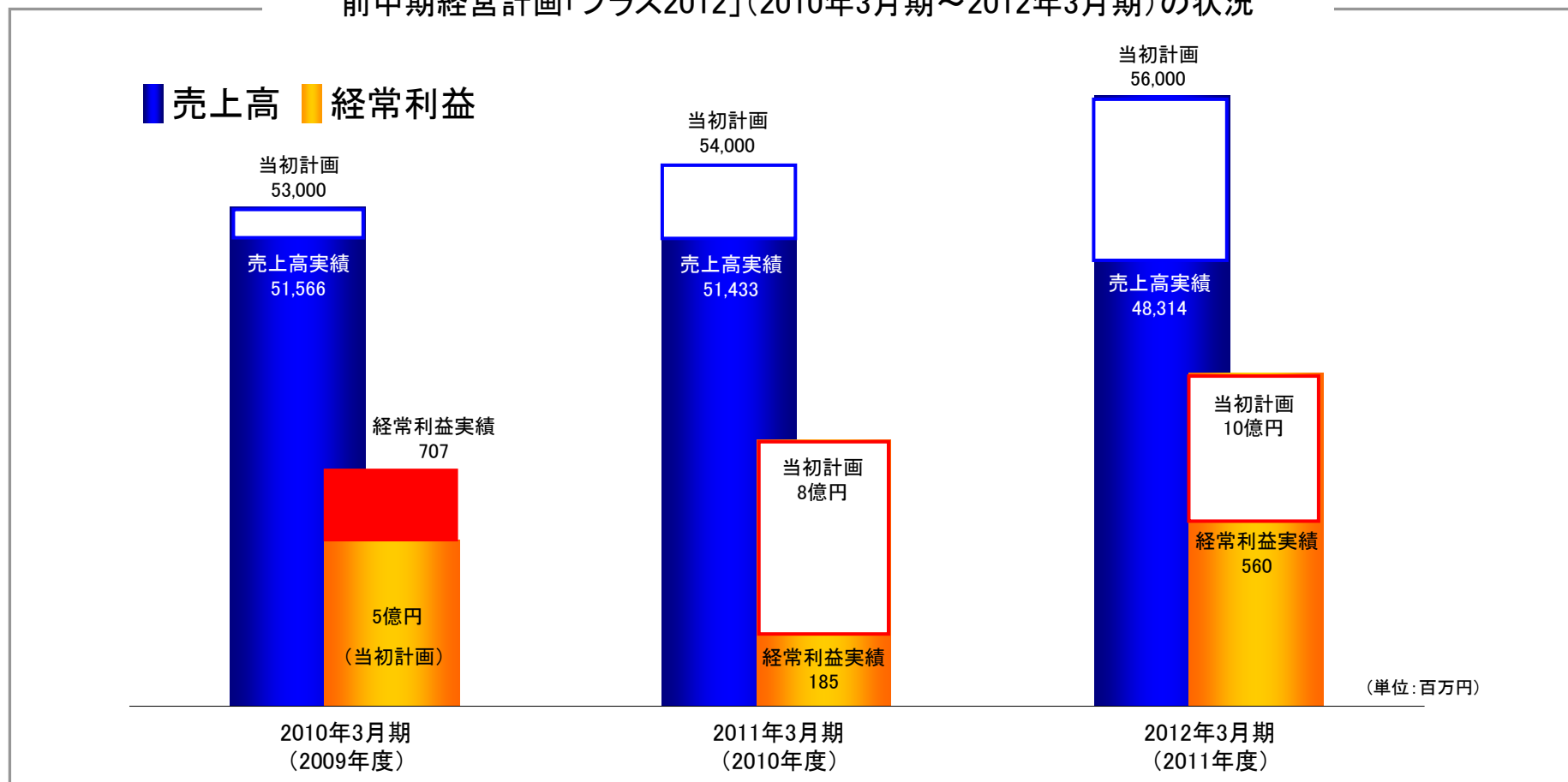
「売り手によし、買い手によし、世間によし、三方よし」を規範とし、「安全・安心」で「良質」な製品を提供することを通じて、豊かな食文化の実現に貢献する。

経営ビジョン

1. 経営資源の選択と集中により構造改革を進め、収益基盤の改善を図る。
2. 安定的な利益確保に向けて構造強化を図り、持続的な事業発展を目指す。

前中期経営計画「プラス2012」期間中における原材料価格の高騰や消費低迷により、収益が圧迫される状況にあった。こうした環境が続く中、消費者の安全・安心を担保し、持続的な発展を可能とするためには、収益基盤を改善する必要がある。そのためには、一時的な売上高減少を厭わずに過去の慣習や慣例と決別し、生産性や効率性をゼロベースで見直し、最適な生産体制を構築しなければならない。

前中期経営計画「プラス2012」(2010年3月期～2012年3月期)の状況



基本方針

可能な限りスリムで生産性の高い体制を構築することにより収益力を回復し、コスト競争力を確保することを基本戦略とする。

「構造改革」

対象工場の最適化により固定費の大幅削減を行う。ライン集約・要員削減を行い、一旦生産数量を落として収益基盤の改善を図る

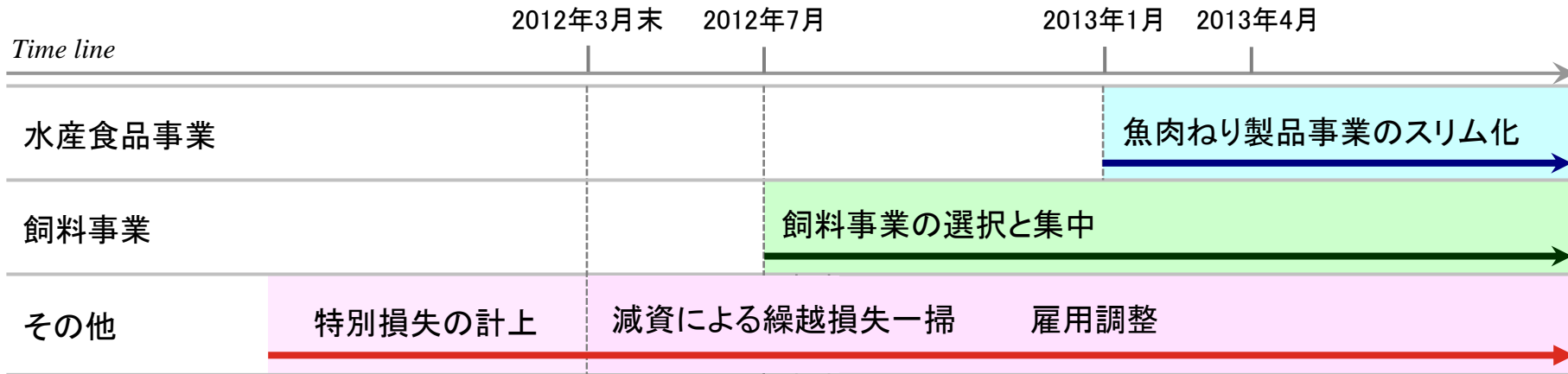
「コスト削減」

将来的には改めて売上げ拡大を目指すものとする。生産部門においては固定費を増加させないように管理し生産力を高める。今後、コスト競争力と営業強化をもって利益増加を図る。

再構築対象

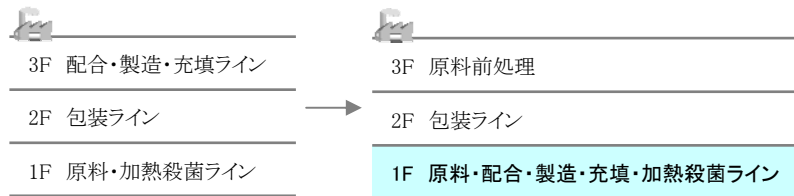
- ・ 食品下関第一工場
- ・ 飼料下関工場
- ・ 雇用調整(全社規模)

「選択と集中」「スリム化」を通じ、コスト競争力を確保



食品下関第一工場の取り組み

魚肉ねり製品の生産ライン集約

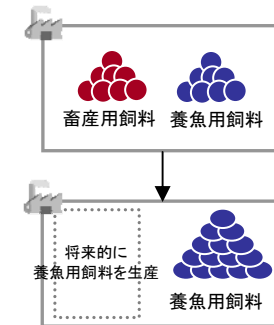


POINT

- ・ 生産ライン短縮による生産性向上
- ・ 生産数量適正化による固定費削減

飼料下関工場の取り組み

畜産用飼料の製造中止 ↓ 養魚用飼料への特化



POINT

- ・ 採算重視の製品選択＝固定費減
- ・ 将来的に養魚用飼料を拡大

水産食品事業

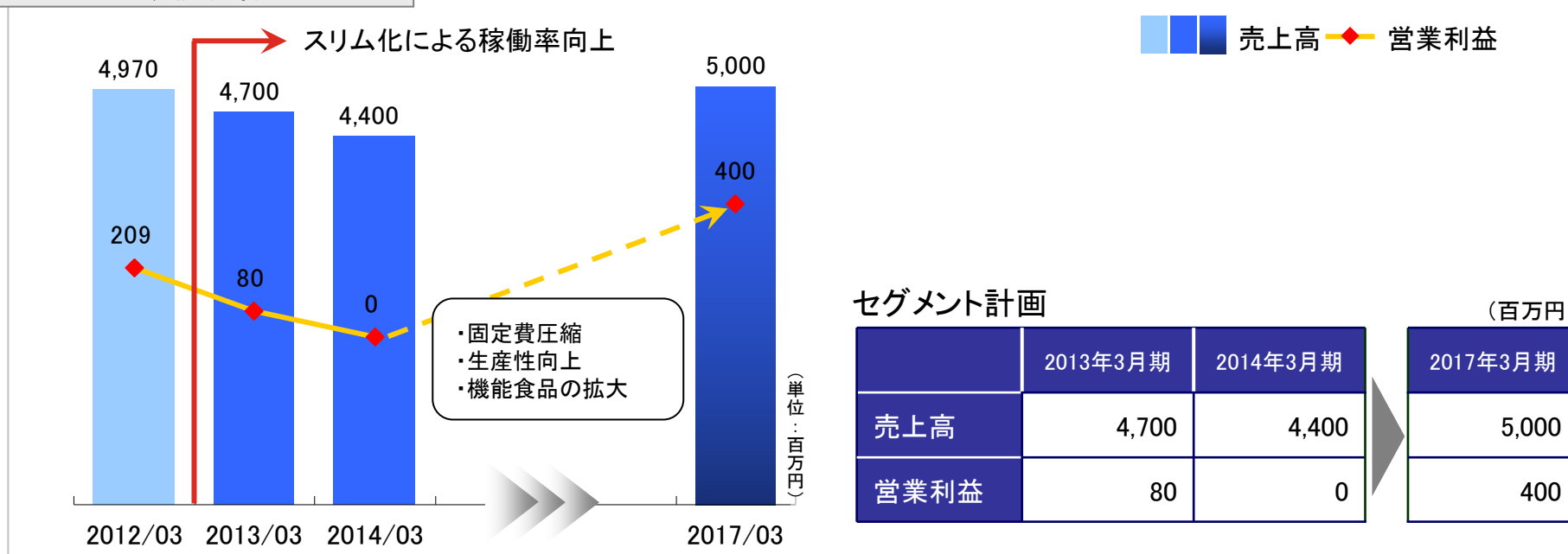
重点施策

- ・ 下関第一工場の生産ライン集約
- ・ 生産数量の適正化
- ・ 機能食品の拡大

魚肉ねり製品事業のスリム化

固定費圧縮・効率性向上

数値目標



水産食品事業

アクションプラン

魚肉ねり製品事業のスリム化

魚肉ねり製品事業は成熟事業と捉え、今後の市場規模縮小に備えてスリム化を行う。また事業構造転換の過渡期として数量圧縮へ前向きに取り組み、アイテム削減と効率化により、利益確保を目指す。

- ・ 下関第1工場の生産ライン集約による効率化
- ・ 生産数量の引き下げによる規模適正化
- ・ 固定費の圧縮
 - － 市場規模の縮小と設備老朽化への対応
 - － 最適な生産体制の構築

機能食品の拡大

市場の拡大を背景として、機能性食品素材や高齢者向け食品などの売上拡大、新商品開発に注力。

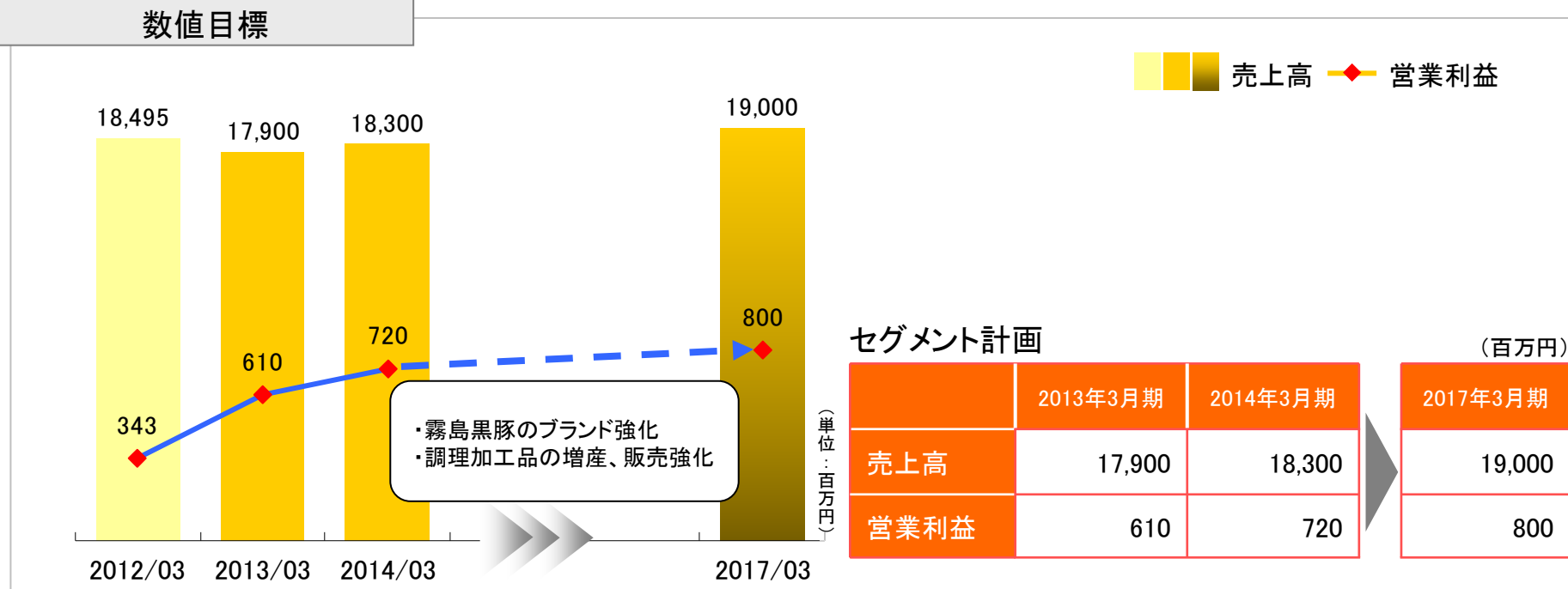
- ・ 関東・関西エリアを優先して拡販強化
- ・ 機能性素材(エラスチン・アスコフィラン等)のエビデンス構築による新市場の創出
- ・ 高齢者食、保健機能食品(ソフミート、和菓子)の販売拡大
 - － 和菓子ライン増設による販売加速
 - － 在宅介護市場への参入

畜産食品事業

重点施策

- ・霧島黒豚のブランド強化
- ・調理加工品の増産、販売体制の強化

数値目標



セグメント計画

	2013年3月期	2014年3月期	2017年3月期
売上高	17,900	18,300	19,000
営業利益	610	720	800

(百万円)

畜産食品事業

アクションプラン

消費動向の変化に迅速に対応し、収益力の強化を図る。

霧島黒豚のブランド強化

- ・ チルド販売の強化による安定利益の確保
- ・ 採算性を重視した販売強化

調理加工品の増産、販売強化

- ・ 林兼フーズ第二工場の全面リニューアル完了による加熱調理食品の生産能力拡大
また、これに伴う当社他工場、協力工場との連携強化による生産体制の構築
- ・ 量販店惣菜部門および外食業態向けへの展開強化

飼料事業

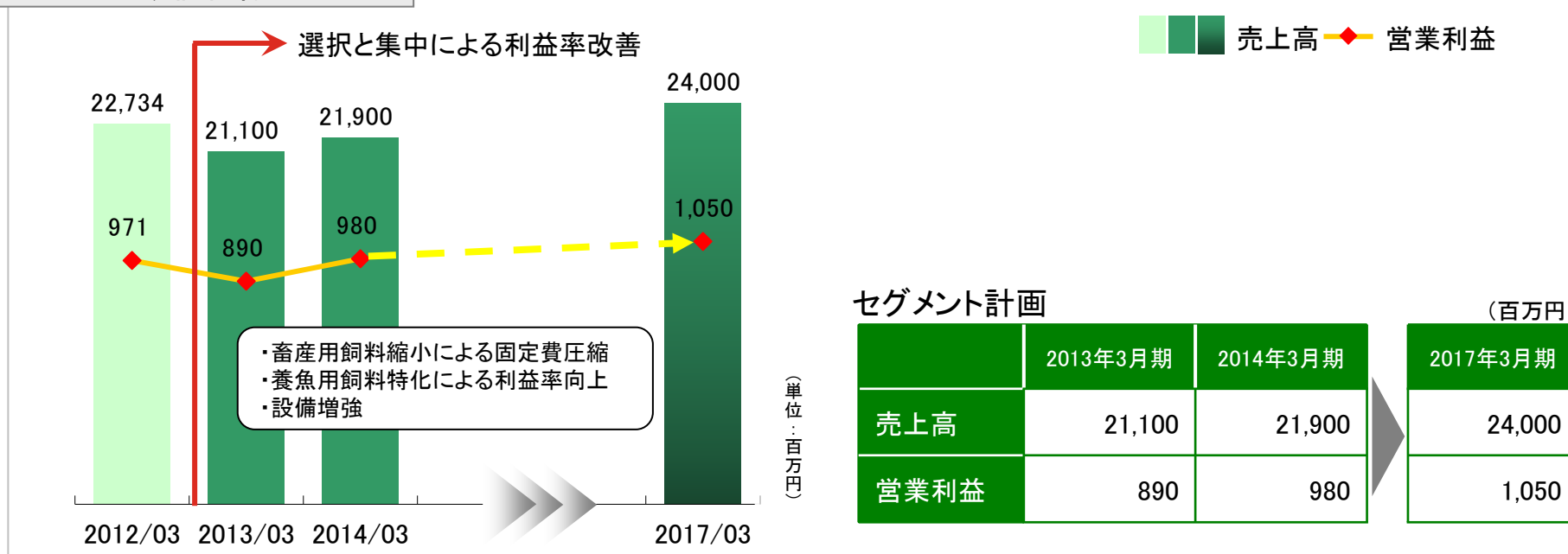
重点施策

飼料事業の選択と集中

- ・ 下関工場での畜産用飼料の製造中止
- ・ 下関工場は養魚用飼料に特化する

養魚用飼料拡大のための増強へ

数値目標



飼料事業

アクションプラン

下関工場での畜産用飼料の製造中止(6月)

養魚用飼料の製造販売に経営資源を集中させることで収益体制の再構築に取り組む。

- ・下関工場での畜産用飼料の製造は中止し他社へ製造委託 → 下関工場は養魚用飼料に特化
- ・志布志飼料株式会社(当社関連会社)での畜産用飼料製造は継続

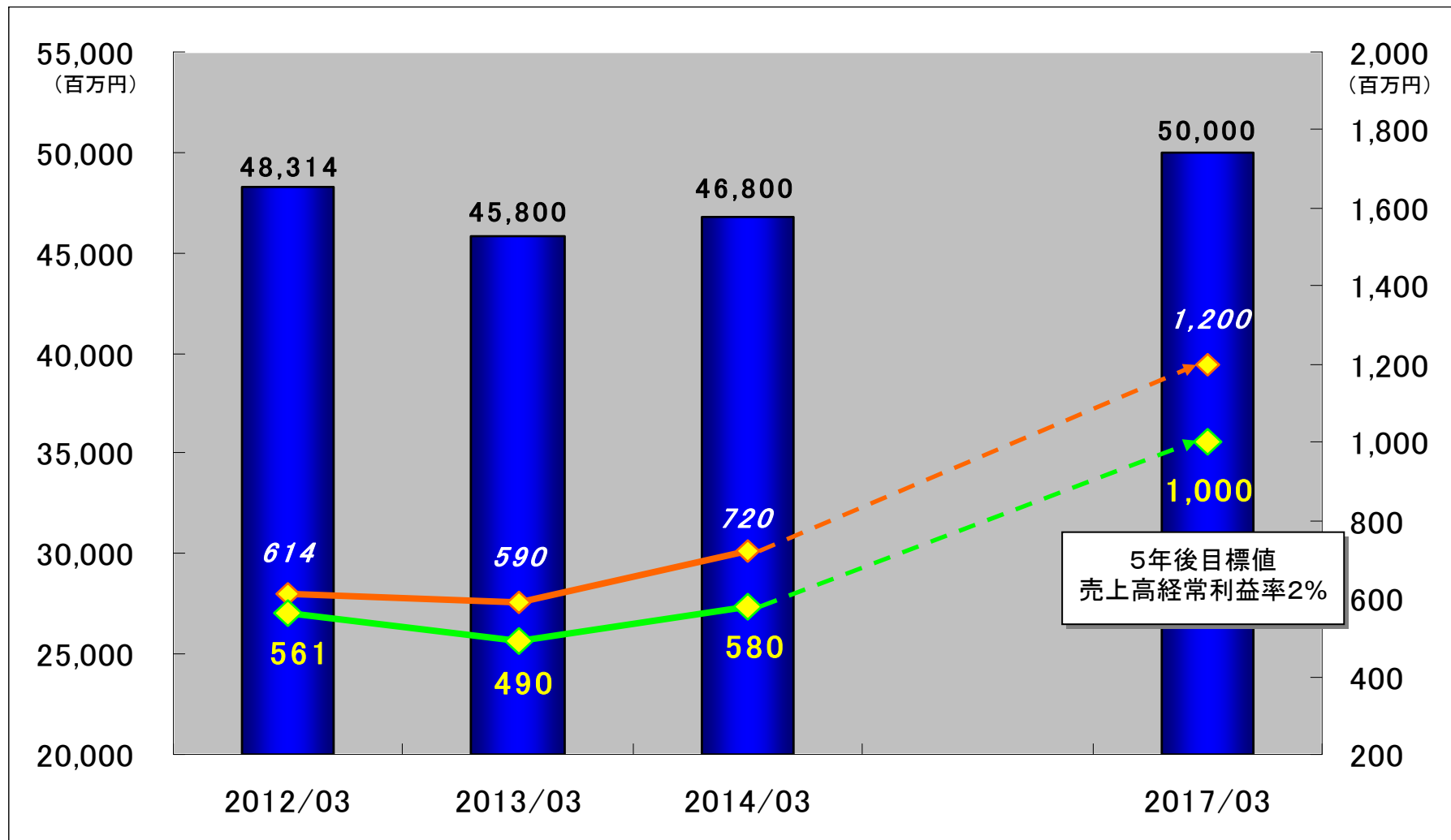
養魚用飼料への特化

養魚用飼料に特化することで、安定的な数量と利益を確保。

同時に、当社の技術を利用した差別化できる新商品の開発を推進することで将来的な収益源を確保する。

- ・設備増強
- ・受託製造の拡大
- ・マグロ用飼料などオンリーワン技術飼料の拡販
- ・魚粉事情に価格や成育が影響されにくい新時代飼料の普及・定着、新魚種用の開発

■ 売上高(左軸) ◆ 営業利益(右軸) ◆ 経常利益(右軸)



売上高・利益計画

(百万円)

	2012年3月期実績	2013年3月期計画	2014年3月期計画
売上高	48,314	45,800	46,800
水産食品事業	4,970	4,700	4,400
畜産食品事業	18,495	17,900	18,300
飼料事業	22,734	21,100	21,900
その他の事業	2,114	2,100	2,200
営業利益	614	590	720
水産食品事業	209	80	0
畜産食品事業	343	610	720
飼料事業	971	890	980
その他の事業	168	140	140
消去又は全社	▲1,078	▲1,130	▲1,120
経常利益	561	490	580
当期純利益	▲893	360	400

機能食品の拡大

ソフミート(ソフト食)

高齢者が増える国内市場において、ソフト食を開発・販売。咀嚼困難な方の為の新しい介護食として拡大。

和菓子

和菓子としての完成度の高さだけでなく、鉄分・カルシウムを配合した保健機能食品、栄養機能食品としても販売。

→ 生産ラインを増設

エラスチン

魚類由来の有効成分を抽出。ドリンク、パウダー、サプリメント、他食品に配合することで素材としての可能性を追求。

素材としての可能性

美容関連素材：皮膚機能改善、向上(シワ、弾力性など)

循環器対応素材：血管機能の改善、向上

※ロコモティブシンドローム関連素材：靭帯、腱などの損傷予防

※ロコモティブシンドロームとは、主に加齢による運動器の障害のため、移動能力の低下をきたして、要介護となる危険の高い状態をさし、足腰の骨、関節、筋肉、靭帯、腱などの劣化が歩行困難をもたらす運動器症候群のことをいいます。

▼ソフト食(ソフミート使用)



▲和菓子のラインナップ

ハラール食品事業の展開

2010年12月

合弁会社OMAKANE SDN. BHD. 設立

2012年 4月

マレーシアでソーセージ(ハラール)の現地生産・販売を開始
3年後には、売上高20億円を目指す

マレーシアは唯一政府機関がハラール認証を行っています



ハラール食品(イスラム食品)とは、
イスラム法の下では、加工や調理に関し
て厳格な作法が要求されます。
イスラム法が遵守された食品がハラール
('許された'という意味)とされます。



▼クアラルンプールで開催された第9回国際ハラール見本市
(MIHAS2012)の様子
「魚肉と鶏肉を使用したプレーンタイプ」「チーズ入りタイプ」
「魚肉を使用したマレー料理オタオタ味」の3種類のソーセ
ージを出展



▲ マレーシアのナジブ首相による試食の様子
(マレーシア、サラワク州での展示会にて)

 林兼産業株式会社

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

IRお問い合わせ先

林兼産業株式会社 管理本部総務部

TEL 083-266-0210

IRサイト <http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html>